

ディープインパクト

33,449票



2005年 東京優駿(日本ダービー) (GI)

ターフを飛翔した無敗の三冠馬

武豊騎手が「走っているというより飛んでいる感じ」と評した末脚で、無敗の三冠馬に輝いたディープインパクト。その人気が社会現象にもなった稀代の名馬のデビューは、2歳12月のことだった。

新馬戦を圧勝したディープインパクトは、翌2005年も若駒S、弥生賞と連勝。皐月賞も、スタートで躓いて大きく出遅れながら、最後は差し切って2馬身半差を付ける圧巻の走りで勝利してみせた。

迎えた日本ダービーもスタートでやや出遅れたものの、そのまま後方を追走すると、3コーナーから外をぐんぐん上がっていく。そして直線、ディープインパクトは飛んだ。馬場の外を、まさに1頭だけ別のレースを走っているかのように伸びて、最後は懸命に粘るインティライミに5馬身差でゴール。勝ちタイムの2分23秒3は当時のレースレコードタイ。単勝支持率73.4%はハイセイコーの66.6%を大きく上回るダービー史上1位で、単勝110円は日本ダービーの史上最低払戻金額(同種類)となった。

秋には菊花賞レコードとなる13万6701人の前で史上6頭目の三冠を達成し、この年のJRA賞年度代表馬に選出。無敗の三冠馬はシンボリルドルフ以来21年ぶり、史上2頭目だった。

翌2006年も天皇賞(春)、宝塚記念と連勝したディープインパクトは凱旋門賞に挑戦。3位入線(後に失格処分)で日本馬の悲願達成には至らなかったが、帰国後にはジャパンカップを完勝。続く有馬記念も圧勝で有終の美を飾り、2年連続で年度代表馬のタイトルを獲得して現役生活を終えた。

引退後は2008年、顕彰馬に選出されたディープインパクト。種牡馬としてもジェンティルドンナ、コントレイルなど数え切れないほどのGI馬を世に送り、11年連続でJRAサイヤーランキングのトップに君臨するなど、競走馬時代に優るとも劣らない成功を取めた。

東京優駿(GI) (72回日本ダービー)

2005年5月29日 東京競馬場 2400m(芝・左) 晴・良 18頭

着順	馬名	性齢	斤量	騎手名	調教師名	タイム/差	人気	通過順位
1	ディープインパクト	牡3	57	武豊	池江泰郎	2:23.3	①	15 13 12 10
2	インティライミ	牡3	57	佐藤哲三	佐々木晶三	5	②	6 3 3 2
3	シックスセンス	牡3	57	四位洋文	長浜博之	2 1/2	⑦	17 15 14 10
4	アドマイヤフジ	牡3	57	福永祐一	橋田満	3/4	⑨	10 10 10 10
5	マイネルレコルト	牡3	57	後藤浩輝	堀井雅広	3/4	⑧	16 18 18 15

ディープインパクト Deep Impact 2002年3月25日生 牡 鹿毛

父:サンデーサイレンス 母:ウインドインハーヘア 母の父:Alzao

生産:早来・ノーザンファーム

馬主:金子真人氏→金子真人ホールディングス 株式会社

通算成績:14戦12勝(うち海外1戦0勝)

主な勝ち鞍

2006年 有馬記念(GI)、ジャパンカップ(GI)、宝塚記念(GI)、天皇賞(春)(GI)、阪神大賞典(GII)

2005年 菊花賞(GI)、日本ダービー(GI)、皐月賞(GI)、神戸新聞杯(GII)、弥生賞(GII)



2006年有馬記念(GI)

メモリアルヒーローファン投票結果

2023年に行った70周年メモリアルヒーローファン投票、本競走の結果は以下の通りです。
1位:ディープリンパクト(33,449票)

2^位 ウオッカ

22,394票



2007年の優勝馬で、牝馬のダービー勝利は1943年のクリフジ以来64年ぶり。父タニノギムレットとともに父仔ダービー制覇でもあった。ウオッカは東京競馬場でGI・6勝。

3^位 コントレイル

18,581票



2020年、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため“無観客競馬”となったダービーを制す。前走で皐月賞、秋には菊花賞に勝利し、父ディープリンパクトと同じ無敗の三冠制覇。

4^位 キズナ

16,093票



2013年の第80回日本ダービー覇者。最終コーナー14番手から末脚を繰り出し、最後はエピファネアに半馬身差で勝利した。上がり3ハロン推定33秒5は出走馬中最速。

5^位 オルフェーヴル

13,057票



雨・不良馬場のコンディションをものともせず、2011年の本競走を力強い走りで勝利した。栗毛のクラシック三冠馬は日本競馬史上、オルフェーヴルのみである。



特設サイト